

を迫つたが會社側は断乎として拒絶したので大正座に引揚げ三庄工場代表
松名恭加は午前十一時から職工大會を開き、各會者約五百名で警備官の臨
場を拒絶して協議を進め「工場は吾々の要求を容れざるのみならず無暴
にも臨時休業未を發表した吾々は意志を鞏固にして目的を貫徹せねばなら
ぬ」と決議し引續き労働演説會を開き杉原労働組合因島支部員外十
名熱辯を揮つて一時共散會したが散會後總同盟支部幹部は支部に集合し
今後の対策を攻究し全国各地の支部に経過を報告し應援を求めた。當議
は全く持久戦に入つた。廣島縣警察部では萬一に備へる爲めその後三原松
永福山尾道廣島の各署に命じ敬言官隊を増派し總勢百數十名をもつて
嚴重警戒中である。

兩者の言ひ分 職工側と會社側

因島工場の當議につき、兩者の言ひ分を聞くと職工側曰く「會社は近時造船
及修繕船が多く儲けてある然るに職工は四年前から同一給料で若い者も年を
とれば妻帯もする子供も出まらざる從つて生活上の壓迫から今度の叫びも出
たりである」と云ひ之に対し會社側は「優良職工は常に選抜的に増給して
ある而して當工場では十分仕事を與へてゐるから可なり多くの収入があり賃
銀も他會社に比し多い方である生活問題についても寧ろ職工の中には金指
環をはめ二回三四の千駄をはき妻帯も携帶散步するあたり一見紳士の如き少
くなく」と言つてゐる。

五月二十五日 大阪毎日新聞記事

百名解雇 因島三庄の兩工場 爭議團交渉開始

大阪鐵工所 因島工場及三庄工場の労働爭議は比較的靜穩裡に雨の一夜を明
かし廿四日午前十時三庄工場職工三百餘名は雨中傘の行列で約一里の路を因島工
場正門に辿りつゝ堅く鎖した門扉を叩んで更に土生所爭議團本部に至つた
同本部は日本労働總同盟因島支部事務所を設置し爭議團支部二ヶ所を設置